

## 1. 事業概要

貴社（団体等を含む。以下同じ）の行っている事業の特徴として特筆すべき内容について記入してください。この際、下記のテーマに関連しているものに**3項目までチェックを入れ**、その詳細を欄内に記述してください。

- 地域人材（障害者・高齢者含む）の活用・育成 地域資源の活用  
経営革新/技術高度化/知財活用/新商品・サービス 企業連携による事業創出・産地活性化  
国際化（インバウンド観光も含む）/海外市場開拓 文化/スポーツ振興/青少年育成  
震災津波・原発事故等からの復興を目指す 伝統を守る/伝統に根ざしたものづくりまたはまちづくり  
地域内連携による活動（企業と学校または住民等との連携による商品開発や環境保全等の地域活動など）  
その他（

### (1) はじめに

地域の農家の主婦たちでグループをつくり、町と連携して廃校を利用した公設民営による農家レストランを運営している。当初は、増えている一人住まいの高齢者の交流の場になればと考えて日曜日だけ開業していたが、平日にも食事ができないとか、地域内には子育てしながら働く主婦も多く、「家事の手間を少しでも軽くするために惣菜や野菜の売り場を設けてくれないか」という要望も多かったため、現在では水曜日を除いて週6日間営業を行うレストランと産直を運営している。

現在、平均で1日あたり約60名の食事客と90名の買い物客が来店している。食堂のなかった地区に食事のできる場所ができたことと利用客に感謝されている一方で、材料は地元の農家や食料品店から仕入れるため、地域経済にも貢献していると考えている。

### (2) 経緯

2011年3月の東日本大震災の後は、若い親子連れが埼玉県などに避難して行くケースが相次ぎ、住民たちが顔を合わせたときにかわすのは、「何となくさびしくなっていくね」という言葉であった。何とかして地域を明るく



できないかと考えていた折り、県の農業普及所の方から「県が開催している『ふくしま6次化創業塾』に参加すれば地域活性化の方策を発見できるかもしれませんよ」と紹介され、2012年の10月に開講した塾に参加した。その塾で、農家レストランの事例を学んだことに刺激され、何とか自分たちの町に農家レストランを開業できないかを考えるようになった。親しくしている主婦たちに声をかけると全員が賛同して、これらの仲間6人で「地域の農産物を活用して農家レストランを営業する」ことを目的に、2013年4月に「住みよい田舎をつくる会」（以下、「つくる会」と略す）を結成した。

“つくる会”では、2013年を準備期間として、次のことを行った。

- ・近隣の農家レストランを視察して、経営のノウハウを研究する。
- ・地域内の農家に呼びかけて出荷グループを結成する。
- ・地区の税理士に“つくる会”に入ってもらい会計の指導を受ける。
- ・地区の管理栄養士から高齢者に配慮したメニューなどについて学ぶ。
- ・調理師資格の取得。
- ・食品衛生の研修を受ける。
- ・町役場に支援を受けられないか相談する。

事業の特徴を書いてください。

町役場に相談する過程で、役場から廃校になる小学校の給食室を利用できないかという提案を受けた。その後、

町役場がこの給食室を農家レストランに改修して公設民営という形で“つくる会”に事業を委託するということがまとまり、2014年4月に農家レストラン開業の運びとなった。

### (3) 事業の概要

当初は町内の高齢者を対象に日曜日だけの営業を行った。レストランには4人座れるテーブルを5台置き、座敷には6人テーブルを2つ置くことで、定員は28人であった。テレビの他に、将棋や碁のセットも置くことで、食事以外にも楽しんでもらえるように配慮されていた。高齢者たちが11時から3時までゆっくり過ごす光景が見られた。

2年目に入った頃、町役場から「高齢者の方々は日曜日だけではつまらない。他の日にも開けてもらえないか」という要望の来ていることを伝えられ、検討するよう依頼された。“つくる会”では、メンバーを増やすことで対応できると考え、募集を行った結果、新たに4人がメンバーに加わって10名で運営することとなり、同年12月から水曜休日の週6日営業となった。さらに、要望に応じて惣菜と野菜売り場も設けることで、現在、平均で1日あたり約60名の食事客と90名の買い物客が来店している。

町には国道沿いに全国に店舗を展開する持つ大手レストランが2店あるのみで、以前多く存在した地元住民が経営する食堂が全くなくなってしまった後に唯一できた農家レストランであり、地元の食材を使っていることと、地元の伝統的な味付けで人気となっている。

### アドバイス！事業のアピールポイントを分かりやすく表現

- 廃校を利用して農家レストランにした。・・・**廃校の有効活用**
- 地元住民経営の食堂が全くなくなった後にできた農家レストランである。・・・**地域再生**
- 町と連携した「公設民営型」である。・・・**住民が地域活性化に参画**
- 単に食事する場所ではなくて将棋や碁をしたりして交流する場所にもなっている。・・・**高齢化対策**
- 産直も併設して食料品の買い物もできるようにしている。・・・**買い物支援**

2. 貴社の事業が地域にもたらしている経済・社会的効果について記述してください。下記事柄があれば文中で触れてください。

- コミュニティから高い評価を受けている
- 評価機関から評価を受けた。
- 報道された。
- 大学等の研究対象となった。
- 視察団を受け入れた。
- 品評会などで受賞した。・・・など

### (1) 健康な高齢者が増加

2014年4月の開業であったが、1日に数名の利用しかない日が1カ月続いた。グループで集まると、赤字でこれでは続けて行かないという話ばかりであった。営業をしたことのない主婦ばかりであったので、「店を開けば客は来るもの」と思い込んでいたのが間違いであった。そこで、ワープロでチラシを作って、老人会が開かれるとそこに出かけて行ってはチラシを配ったり、役場の町民課の窓口や郵便局のカウンターにもチラシを置いてもらおうと、少しずつ来店客が増えて行った。管理栄養士指導のメニューであることと、味もいいことが口コミで伝わって行ったのか、年末には9割埋まるという時間帯もあるという入店状況になった。そして、日曜だけでなく平日にも営業してもらいたいという要望につながったのである。

高齢者の健康に配慮した料理内容というのが大きな目玉であり、このことが高齢者の健康意識につながったのか、最近の町の調査によると高齢者の医療費が低下を見せている。さらに、高齢者の交流の場にもなっていて、高齢者がレストランに行くのが楽しみになったと言われるようになった。「食事もいいが、暮をする相手がいて楽しい」とか、「週一回同窓会やっている」という声も出て来ている。そういうことから、2018年10月には、「つくる会」は町長から「健康づくり感謝状」をもらった。



管理栄養士による  
メニュー開発

### (2) 見学者が増加

「健康づくり感謝状」をもらったことが新聞に掲載されたことから、県内外からの見学者が相次いでいる。2019年12月には農林水産省からの視察もあり、白書に掲載される予定と聞いている。

### (3) 青少年育成にも貢献

地元の小学校と中学校の児童生徒のインターン(社会実習)も受け入れている。毎週のように、授業のない土日には3,4名の児童生徒が接客の実習をしている。一人住まいの高齢者は孫が遠隔地に住んでいることから、児童生徒の実習生との交流を楽しみに通ってくる客も多い。

たまには児童生徒の考案したメニューも出しているが好評である。2019年にはアイデアメニューのコンクールをやろうと検討している。レストランに町民の皆さんが集まる機会になると役場は助成金を出す方向で支援を約束している。



料理実習する小学生

### アドバイス！事業によって得られた効果をポイントを絞り表現

- 高齢者が健康になった。・・・健康寿命の増進
- 小中学生の実習。・・・人材育成
- 見学者が増加。農林水産省が視察・・・町の知名度アップ
- 町長から表彰を受ける。・・・参加者のモチベーションアップ

### 3. 今まで事業に取り組んで来た思い・熱意と、将来に向けての抱負および計画

2011年3月の東日本大震災の後、地域外に避難して行く人が相次いだために町が寂しくなっていく中で、住民たちが交流し支え合う場所をつくることを第1に考えて農家レストランを開業し今までやって来た。

また、1人暮らしの世帯が増加しつつあり、町役場も打つ手がなくて困っていた時に町民と役場職員とが手を携えて、地域の課題解決に取り組んで来た。そのシンボルとも言うべきものが廃校を利用した農家レストランである。

税金を払っているから何でも行政がすべきであるという考えの人もいるが、それでは際限なく税負担が増えることになるため、自分たちができるところはやっていくという気持でやって来た。そして、町民同士が協力することで農家レストランは運営されているが、町民にはそれぞれ特技のあることがわかってきた。しかも、その特技を発揮することが生きがいにもつながっていると考えている。

主婦が中心であるが、この町民パワーであらゆる問題が解決できることを経験で学んできたので、これからは、農家レストランだけでなく、加工食品づくりにもチャレンジして行く計画である。この町は様々な果物が栽培されているため、それらをドライフルーツなどの商品にして県内外に出荷することを計画している。

夢としては、農家レストランと農産加工施設を充実させて、子や孫たちが地元で仕事できるようにしたいということである。私たちが早晚働けなく年齢になるので、子と孫にバトンタッチできるよう計画的に事業を発展させていきたいと考えている。

### アドバイス！事業をどう伸ばすのか。社会、時代との関わりを持たせて表現

- レストランだけでなく加工食品も開発して行く。・・・地域経済の発展
- 子や孫に継いで行く。・・・地域の持続性